

No.045 株式会社 鉾石運輸 【輸送モード:トラック】

「社長自ら率先し、安全指導と乗務員の愛車精神が、事故件数「0」の風土を構築する。」

1. 概要

企業情報

所在地	北海道士別市上士別町 16 線南 3 番地			創立	1968 年
年 商	約 5,000 万円	人員数	7 名 (乗務員 6 名含む)	資本金	1,700 万円
拠点数	本社事務所及び車庫の計 2 拠点	車両等	7 両 (うちダンプ: 6 両、 トラック: 1 両)		
事業内容	貨物自動車運送事業、土木・建設業他				
輸送品目	砕石・骨材・除雪他				
取引先	地方公共団体(市・町)等				

組織的安全マネジメントの特長

人も車も少ない会社規模であるため、何をやるのでも、すぐに全社員に浸透しやすいことが利点となっている。社長自らによる点呼実施をはじめ、日常業務においても社員全員の顔を直接、対面で確認、指導している。

社内の会議では、社長自ら開催して議事進行を務めており、乗務員が作成した「ヒヤリ・ハットカード」を会議で必ずとりあげ、検討する。これが乗務員へのフィードバックとなり、提出する意義が伝わっている。

各乗務員に愛車精神があるため、特に指導しなくても車両の洗車、清掃に余念がなく、毎日車両がきれいに整備されている。日常点検などの整備管理面に関する各乗務員の意識も高く、「車輛清掃チェックシート」では、各自が保守管理面に自ら厳しい評価を行っている。

調査者所見

社長自ら実施する点呼や、日常業務における社員全員との対面での確認・指導を始め、会議における議事進行など、交通労働災害防止計画の達成度の確認、対策検討が経営トップ自ら率先して行われている。これらの経営トップ自ら率先した安全体制の構築活動が全社員に安全意識を浸透させると共に、鉾石採取のための発破作業などの事業特性による労働安全衛生に対する意識の高さ、乗務員の愛車精神の理念等が、事故件数「0」を達成している堅実な安全風土を構築していると感じた。社長を中心に一つの小集団として乗務員の意識の統一がされていると感じた。

調査情報

調査日	2010 年 2 月 18 日	訪問先	本社及び車庫
対応者	代表取締役社長		

(注) 企業情報等の内容は調査日を基準日とした内容である

## 2. 会社の概要、創業からの成長経過

1968年に前社長が土木建設関係の砕石工場を建設し、お客様への砕石・骨材等の輸送業務を白ナンバーの車両で開始した。

その後、輸送量が増加して事業も拡大すると共に、車両も大型化して台数を増やすことにより、平成8年からは緑ナンバーを取得して輸送業務の営業事業を開始した。

15～20kmの輸送距離がある工事現場との1日10～13回位の往復運行を始め、冬季の除雪作業では、除雪を親会社の(株)山本組採石工業が行い、(株)鉱石運輸が排雪作業を担当している。

北海道では冬季間、建設事業に携わっている事業者で冬の間には仕事がなくなるケースもある中で、(株)鉱石運輸では通年雇用をしている。このことにより乗務員も気持ち安定するため、安全管理もしやすい風土が構築されている。創業当時から乗務員の定着率も良く、白ナンバーの時代から勤務している乗務員もおり、現在までの堅実な経営が実施されている。

## 3. トップの考え方

現社長は昭和43年から砕石業界に携わり、昭和48年に入社してから前社長の下で勤務し、現在、代表取締役役に就任している。

関連会社に土木関係の事業を行い、前社長が経営する山本建設と山本組があり、前社長からの指名を受けて鉱石運輸の代表取締役役に就任した。

以前は砕石事業の営業活動に従事し、その中で培われたお客様との折衝を活かして、現在は周辺地域の同業他社との連携、協力、競争などを通じて、地域の発展に尽力している。

白ナンバーの時代に一般車両に衝突され、人身事故が発生したことを発端に安全に対する意識改革を行い、安全確保に関する更に強い信念を持った。

その中の1つとして、トラック協会から紹介を受けた安全性優良事業(Gマーク)が安全対策にも有効と考え、認証に向けた安全体制の確立を行った。

取得当時は、安全性優良事業(Gマーク)を取得している事業者は殆どなく、士別地区では初期取得事業者の中の1社であり、安全の確保と地域への貢献を目指している。

#### 4. 組織的安全マネジメントへの取り組み

##### A) トップのコミットメントと行動

ポイント	CL 項目※
◆社内の会議では、社長自ら開催して議事進行を務めている。	A 1、B 1
◆人も車も少ない会社規模であるため、何をやるのでも、すぐに全社員に浸透しやすいことが利点となっており、社長自らによる点呼をはじめ、日常業務においても社員全員の顔を直接、対面で確認、指導している。	A 1、B 1 、D 5

※CL 項目とは、組織的安全マネジメントチェックリストの項目である。項目の内容については「7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果」参照。

- ・ 砕石事業における砕石の大きさを揃えるための発破作業も行っており、交通安全のみならず作業に関する労働安全衛生への取り組みを重要と捉えている。
- ・ 人も車も少ない会社規模であるため、何をやるのでも、すぐに全社員に浸透しやすいことが利点である。
- ・ 社長は点呼をはじめ、日常業務においても社員全員の顔を直接、対面で確認、指導している。
- ・ 社内の会議では、社長自ら開催して議事進行を務めている。
- ・ 社長自ら、乗務員の指導、研修を行っている。
- ・ 省燃費運転の実践も指導している。
- ・ 何事も周知徹底するためには、指導を継続することが必要と考えている。
- ・ 夏のエアコンの作動などに関する指導を行っているが、アイドリングが必要なケースや運行経路が山道などの状況変化もあるため、あまり細かいことは云わないようしている。
- ・ 車両の乗務ではストレスを感じることも多く、息抜きが必要と考えている。

##### B) マネジメントシステム

ポイント	CL 項目
◆安全体制の構築に向けて、土別地区ではまだ取得事業者が少なかった安全性優良事業(G マーク)の認証を取得した。	B 1
◆毎年、交通労働災害防止計画書を作成して運用しており、その達成度の確認、検討が行われている。	B 1、B 2 C 3、C 4
◆会議には社長、運行管理者は勿論のこと、他の関連会社からも出席、参加して、グループとしての情報の共有化に努めている。	B 1、B 3 、B 6

##### 【人事・マネジメント関連について】

- ・ 重点事項は、現在、シートベルトの着用やデイライト、踏切での一旦停止・確認の徹底を行っている。
- ・ 会社として特に方針は定めていないが、安全重点実施項目を定めている。(福沢諭吉の心

訓も掲げられていた。)

- ・安全性優良事業(G マーク)を 4 年前に取得した。
- ・事故がないことである資格要件も満足していたこともあり、安全体制の構築に向けて安全性優良事業(G マーク)の認証を取得した。
- ・認証の取得に際しては、トラック協会からアドバイスを頂きながら取得した。
- ・取得当時、安全性優良事業(G マーク)を取得している事業者は殆どなく、土別地区では初期取得事業者の中の 1 社である。
- ・帳票類は、トラック協会から頂いた資料を自社スタイルにアレンジして使用し、管理している。
- ・ヒヤリハットも安全性優良事業(G マーク)の取得と伴に始めた。
- ・毎年、交通労働災害防止計画書を作成して運用しており、その達成度の確認、検討も行っている。
- ・会社としての表彰制度は運用していないが、トラック協会からの 5 年、10 年等の無事故表彰を利用している。

#### 【情報の活用会議等について】

- ・会議には社長、運行管理者は勿論のこと、他の関連会社からも出席、参加して、グループとしての情報の共有化に努めている。
- ・毎月 1 回、月初めに安全教育の場を設けており、お客様への運行経路の選定などに関するディスカッションも行われている。
- ・毎月「ヒヤリハット/カード安全会議」が開催されており、前月までの帳票類の提出とそれに関する討議を踏まえて翌月の対策事項が決定されている。

### C) 教育訓練制度

ポイント	CL 項目
◆毎年、時期も考慮した 1 年間教育計画表を立案し、その計画に基づき指導しており、社長、課長、先輩乗務員が乗務員の研修指導に当たっている。	C 1、C 2 、B 1
◆社内の会議では、社長自ら開催して議事進行を務めており、乗務員が作成した「ヒヤリ・ハットカード」を会議で必ずとりあげ、検討する。これが乗務員へのフィードバックとなり、提出する意義が伝わっている。	C 4、C 3 C 5
◆トラック協会の教育研修への毎年 2 名ずつの乗務員参加や管理者向け研修など、外部研修会も活用している。	C 2、B 1

#### 【採用・新人研修関連について】

- ・採用は適宜実施しているが、採用者はこれまで乗務経験のある人がほとんどである。

【乗務員の研修等について】

- ・ダンプ車両の運転者は一匹狼的なイメージが強いが、車両を運転して生活するプロドライバーであり、家族も守る責任を果たす、責任ある行動を心掛けるよう指導している。
- ・毎年、時期も考慮した1年間教育計画表を立案し、その計画に基づき指導している。
- ・乗務員の研修は、社長、課長のほか、先輩乗務員が指導に当たる。
- ・乗務員への指導、研修会は、業務が終了した夕方に行っている。
- ・乗務員を毎年2名ずつ、トラック協会の教育研修に極力参加させている。
- ・管理者向けの外部研修会にも参加している。
- ・毎年1月にNASVAの出張適性診断を受診している。
- ・危険マップは、毎月開催されている「ヒヤリハット/カード安全会議」の場で作成されている。
- ・ヒヤリハット活動は、安全性優良事業(Gマーク)の取得前後である4,5年前から始めた。

D) 現場管理

ポイント	CL項目
◆各乗務員に愛車精神があるため、特に指導しなくても車両の洗車、清掃に余念がなく、毎日車両がきれいに整備されており、日常点検などの整備管理面に関する各乗務員の意識も高く、「車輛清掃チェックシート」では、各自が保守管理面に自ら厳しい評価を行っている。	D2、D3
◆冬季の除雪作業では、市街地が主な除雪作業となるため、当日の排雪路線や危険個所の説明、また、住民が分かるようにデイルイト、シートベルトの徹底を朝礼で義務付けし、安全管理への十分な配慮を行わせている。	D1、D5

【日常業務等について】

- ・業務運用上、深夜作業がないため、毎朝、全乗務員と対面での点呼が行われている。
- ・朝礼は業務上の理由のために毎日の開催ではないが、伝達事項等の必要の都度、重点安全対策の徹底や必要事項等を対面で周知している。
- ・周知、徹底に努めているが、安全パトロール時にライトがスモールランプであったりすれば、その場で注意、指導している。
- ・毎月、全乗務員が「ヒヤリ・ハット・カード」と「点検・整備記録簿」を記入して提出しており、各自が保管もしている。
- ・各車両に管理担当者が選任されており、毎日、「車輛清掃チェックシート」による車両の点検、清掃が実施されている。
- ・各乗務員に愛車精神があるため、特に指導しなくても車両の洗車、清掃に余念がなく、毎日車両がきれいに整備されている。
- ・日常点検などの整備管理面に関する各乗務員の意識も高く、「車輛清掃チェックシート」では、各自が保守管理面に自ら厳しい評価を行っている。

- ・あまり綺麗であると、積込み作業の事業者が車両を汚してしまう等、気を使わせてしまう点も話しているが、各乗務員は洗車、清掃などに余念がない。
- ・親会社である(株)山本組採石工業では発破作業も行っており、(株)鉦石運輸の車庫がある(株)山本組採石工業の構内には、保安距離を離れた位置に一級火薬庫も設備されている。発破作業時や不審者の進入に対して十分注意が払われた指導、管理が行われている。
- ・冬季の除雪作業では、除雪を親会社の(株)山本組採石工業が行い、(株)鉦石運輸が排雪作業を担当している。特に、市街地が主な除雪作業となるため、その日の排雪路線や危険個所の説明、また、住民が分かるようにデイルイト、シートベルトの徹底を朝礼で義務付けしており、安全管理への十分な配慮の下で業務が遂行されている。

## 5. 顧客や取引先との関係

冬期は、運輸部門と砕石部門の全員が除雪業務に参加している。

冬季の除雪業務は、冬に収入を得るための貴重な事業となっているが、市からの工事入札となっており、事業者にとって業務獲得は厳しい情勢となっている。

地元の同業事業者には2社あり、2社とも15両位の車両を所有して(株)鉦石運輸よりも規模が大きく、敵わない状況であるが、顧客との地道な料金折衝を行い、協力を頂きながら、堅実な経営を目指している。

また、トラック協会士別支部会員として、地域の安全活動に参加しており、ダミー人形を利用した子供向けの安全教室を行うなど、地元警察からの協力、感謝も受けている。

## 6. 安全に関する実績データ

### 【交通事故発生率】

事故記録簿により管理しており、車両6両でここ10年で1件の接触事故があったが、こここのところ事故は全く発生していない。

## 7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果

区分		項目		評価
A	トップのコミットメントと行動	A 1	行動見本（現場巡回）	ア
		A 2	経費予算配分	ウ
		A 3	賞罰制度	イ
B	マネジメントシステム	B 1	理念・行動指針	イ
		B 2	マネジメントサイクル	ウ
		B 3	情報管理のしくみ（安全の実績・情報）	ウ
		B 4	人員配置と異動	イ
		B 5	管理者育成	ウ
		B 6	協力業者管理（関連会社等）	イ
		B 7	お客様の評価	ウ
C	教育訓練制度	C 1	採用・新人教育	イ
		C 2	運転スキル、作業スキル訓練	ウ
		C 3	事故分析、再発防止教育	ウ
		C 4	KYT、ヒヤリハット	ウ
		C 5	小集団活動（班活動）	ウ
D	現場管理	D 1	ルールの順守	イ
		D 2	日常点検・整備	ウ
		D 3	整理、整頓、洗車、清掃	ウ
		D 4	現場巡回指導（街頭指導）	ウ
		D 5	点呼・朝礼	ウ
		D 6	身だしなみ、服装	ウ
		D 7	挨拶、返事、報告	イ
		D 8	時間管理、生活管理	イ
		D 9	協力意識	ウ

※組織的安全マネジメントのチェックリスト（詳細）は、国土交通政策研究所のホームページから入手可能。検索エンジンで「国土交通政策研究所」と入力。“●研究会・アドバイザー会議等”のページにある“運輸企業のための組織的安全マネジメント手法に関する調査”「第3回アドバイザー会議資料（平成21年3月17日）資料3」の郵送調査票参照。



写真1  
除雪業務風景



写真2  
除雪作業に参加している車両



写真3  
パトロール車



写真4  
事務所内掲示風景  
旭川地区トラック協会  
からの表彰状

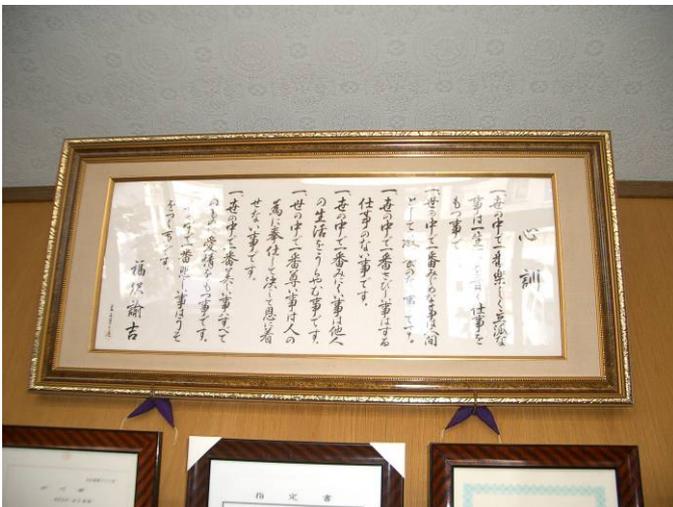


写真5  
事務所内掲示風景  
福沢諭吉の心訓

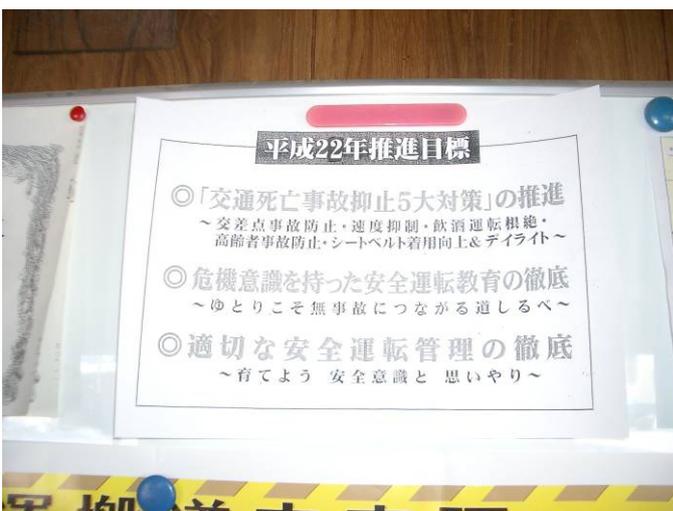


写真6  
乗務員休憩室掲示風景  
平成22年推進目標

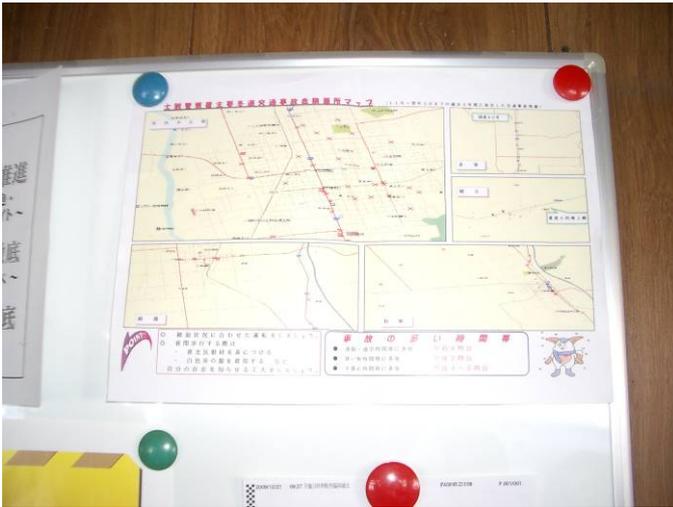


写真7  
乗務員休憩室掲示風景  
交通事故危険箇所マップ



写真8  
乗務員休憩室掲示風景  
排雪運搬遵守事項



写真9  
乗務員休憩室掲示風景  
各種ポスター等の掲示

交通労働災害防止計画書

株式会社 鉱石運輸

重点実施項目	I. 3000時間無事故の達成（年時間）	
	II. 車両清掃の徹底	
III. 「ヒヤリ・ハット」カードによる「危険マップ」の作成		
IV. 季節ごとの安全教育		
月別重点実施事項		達成度数(%)
10月	① 車両清掃点検者による車両チェック	70 2台
	② 無事故達成時間の確認・指示	100
	③ 「危険マップ」による対策確認	100
	④ 危険の予測・回避	100
	⑤ 「ヒヤリ・ハット」カード配布	100
11月	① 初冬における走行方法・危険箇所に対する注意	100
	② 夕暮時の走行・注意点	100
	③ トラック運転の心構えについて	100
	④ 「危険マップ」作成	100
12月	① 交通事故における運転者の生理的・心理的要因と対処方法	90 1名欠席
	② 車両清掃点検者による車両チェック	70 2台
	③ 冬道の悪天候の走行などについて(避難場所・連絡方法など)	90 1名欠席
	④ 冬場の健康管理について	90 1名欠席
1月	① 「ヒヤリ・ハット」カードによる危険ポイントチェック	90 1名欠席
	② 無事故達成時間の確認・指示(以後、3ヶ月ごと)	90 1名欠席
	③ 車両の自主管理(球切れ・テールランプの雪付など)	90 1名欠席
	④ 適性診断の全員受診	80 2名欠席
2月	① 「危険マップ」による危険ポイントの分析・対策	100
	② 車両清掃点検者による車両チェック	50 3台
	③ 凍結路面の走行による注意点・車間距離のとりかた	100
	④ 運転者の運転適性に応じた安全運転	100
3月	① 「ヒヤリ・ハット」カードによる危険ポイントチェック	100
	② 始業前後の自主点検・整備管理者による整備点検	100
	③ 日報・チャート紙・整備記録簿の記入見方	100
	④ 過積載の危険性	100
4月	① 車両清掃点検者による車両チェック	70 2台
	② 無事故達成時間の確認・指示	100
	③ 歩行者・自転車の保護(特に新入生)	90 1名欠席
	④ トラックを運転する場合の心構え	90 1名欠席
5月	① 「ヒヤリ・ハット」カードによる危険ポイントチェック	100
	② 道路交通法の遵守	100
	③ 過積載の防止・荷崩れなどの確認	100
	④ 安全運行のための遵守すべき基本事項	100
6月	① 車両清掃点検者による車両チェック	100
	② 「危険マップ」による危険ポイントの分析・対策	100
	③ 非常用信号用具・消火器の使用方法	100
	④ 健康診断の全員受診	100
7月	① 「ヒヤリ・ハット」カードによる危険ポイントチェック	100
	② 無事故達成時間の確認・指示	100
	③ 適切な運行経路と当該経路の交通状況	100
	④ 夏場における健康管理	100
8月	① 車両清掃点検者による車両チェック	100
	② ウツカリ、ボンヤリ運転の防止・市街地における走行方法	100
	③ 事業所内の清掃・安全点検	100
	④ 異常気象時の対応	100
9月	① 「ヒヤリ・ハット」カードによる危険ポイントチェック	80 2名欠席
	② 輸送繁忙期前の安全運転の確認	100
	③ 定期点検の時期・車両故障の連絡方法(整備管理者により)	100
	④ トラックの構造上の特性	100

社長	課長	管理官	係

平成21年度 1年間教育計画表

指導教育内容	日	時間	担当者	備考
危険の子割・回籠 運転技術の過信防止 輸送繁忙期の交通安全教育 交差点・曲り角の走行	1	18:00～		上士別21線 車庫
朝夕の凍結路走行について 夕暮時の早目点灯 冬の交通安全運動 トラック運転の心構えについて	1	18:00～		上士別21線 車庫
車輛点検について 交通事故における運転者の生理的・心理的要因と対処方法 排雪作業について	1	17:00～		上士別21線 車庫
冬場の健康管理について 適性診断の全員受診 今年の事業計画方針 排雪などの走行路線	6	16:00～		上士別21線 車庫
凍結路面の走行方法 定期点検など 運転者の運転適性に 応じた安全運転	2	16:30～		上士別21線 車庫
雪どけ水による泥はね防止 運転手の外部講習 過剰載の危険性	2	16:30～		上士別21線 車庫

指導教育内容	日	時間	担当者	備考
新入生児童の保護 トラックを運転する 場合の心構え 春の交通安全運動	1	17:00～		上士別21線 車庫
道路交通法の遵守 春の交通安全運動 安全運行のための遵守すべき基本事項	1	18:00～		上士別21線 車庫
運行前点検 非常用信号用具・消 火器の使用方法	2	18:00～		上士別21線 車庫
運行終了後の管理 夏の交通安全運動 夏場の健康管理につ いて 観光・行楽に伴う事 故防止	1	18:00～		上士別21線 車庫
運転中の現場などの慣れについて 皇宮皇族時の対応 事業所内の安全点検	1	18:00～		上士別21線 車庫
秋の交通安全運動 車輛の応急修理法 トラックの構造上の 特性	1	18:00～		上士別21線 車庫

平成 21 年 10 月 28 日

課長	係長	担当
●		

(株) 鉦石運輸

「ヒヤリ」・「ハット」・カード

このメモは、交通労働災害(交通事故)の防止に役立つものです。あなたが日常の運転業務中に「ヒヤリ」・「ハット」と感じたことを、ありのままに書いてください。

いつ	平成 21 年 10 月 28 日 水曜日 15 時 00 分頃 天気 (晴)
どこで	高速自動車国道 一般国道 その他の道路 ( ) 構内
どんなところ	交差点 左・右カーブ 直線 トンネル 橋梁 その他 ( )
どのように	正面衝突 側面衝突 追突 工作物に激突 路外転落 その他 ( )
どんなふう	しそうなった されそうなった その他 ( )
どうして	速度の出し過ぎ 信号無視 一時停止 右・左折不適切
	追い越し不適切 追い抜き不適切 転回不適切 居眠り
	前方不注意 プレーキ作動不良 その他 ( )
もっと詳しく書いてください	<p>参考図</p>
原因・反省	乗用車一時不停止におよび、おぼろげに急ブレーキを踏んだため、前方から付か
改善したい事	つてが「どろろ」が見落せば事故かと、前方確認、左右確認をおこな
責任者のコメント	
備考	

(注) 核当する項目に○印を付けてください。

車号

運転手

点検・整備記録簿

H21年

(株) 鉱石運輸

車号 [REDACTED] 運転手 [REDACTED]

9月	点検良否	部品名	修理箇所	修理工場名
1	○			
2	○			
3	○			
4	○			
5	○	バッテリー液2ℓ		[REDACTED]
6				
7	○			
8	○			
9	○	ファンベルト2本	3ヶ月点検	[REDACTED]
10	○		押アクリ溶接	[REDACTED]
11	○			
12	○			
13				
14	○			
15	○			
16	○			
17				
18				
19	○			
20				
21	○			
22	○			
23	○			
24	○			
25	○			
26	○			
27				
28	○			
29	○			
30	○			

車輛清掃チェックシート

株式会社 鉦石運輸

平成 22 年 / 月

車番  氏名

日 付	フロントライト		前後		テールランプ		運転室内		荷 台		車体全般	
	スモールランプ	方向指示器	ナンバープレート	方向指示器	方向指示器	方向指示器						
1												
2												
3												
4												
5												
6		○		○		○		○		○		○
7		○		○		○		○		○		○
8		○		○		○		○		○		×
9		○		○		○		○		○		×
10												
11		○		○		○		○		○		×
12		○		○		○		○		×		×
13		○		○		○		○		×		×
14		○		○		○		○		×		×
15		○		○		○		○		○		×
16		○		○		○		○		○		×
17												
18		○		○		○		○		○		○
19		○		○		○		○		×		×
20		○		○		○		○		○		○
21		○		○		○		○		○		○
22		○		○		○		○		○		○
23		○		○		○		○		○		×
24		○		○		○		○		○		○
25		○		○		○		○		○		○
26		○		○		○		○		○		○
27		○		○		○		○		○		×
28		○		○		○		○		×		×
29		○		○		○		○		○		×
30		○		○		○		○		×		×
31												

\*良なら○印をつけてください。

以上